「沖縄の気候解説」

沖縄気象台編
1998年，沖縄気象協会出版
A4版120頁，定価1,800円

本書は沖縄気象台の編纂による沖縄地域の気候解説書である．本書は平成８年３月沖縄気象台の部内資料として出版されている．それを，あらたな装丁で去る２月，一般向け利用者の便をはかり気象協会が発刊したものである．新著紹介としてはタイミングを逸しているが，従来のこの手の書には類を見ない表現技術をとりいれているので，あえてここで紹介したい．

琉球王国という言葉でイメージされる沖縄の地理・文化を育んできた沖縄地域の気候を解説しようという，元沖縄気象台長であった小野俊行氏（前気象庁長官）のロマン的な発想に感化されたのがこの解説書に取り組んだ始まりという．沖縄気象台業務課の栽吉信氏を中心に主に若い職員が協力してまとめた本と聞いている．

気候についての知識は人々がみずからの住む地方の日常生活を合理的に処して行くために大いに役立つ．したがって，沖縄では，遠くは18世紀初め，東シナ海航行安全のために書かれた気候関連の書「指南広義」の著者である程順則の時代から今日に至るまで，いろいろな手法で気候の解説が試みられてきた．明治から昭和初期にかけて石垣島測候所長を長年つとめた岩崎卓爾やその後の沖縄気象台職員として活躍された北村伸治，糸数昌丈等もその時代までに得られたデータをフルに利用してより科学的な情報量を含んだ気候解説をもとめて尽力された．国内では今，気象観測データはほぼ百年積み重ねられた．データ量の少ない時代は人力でデータの統計や解析が可能であった．しかし，データの蓄積が100年近くになると，その処理に人力では対応できなくなった．幸いコンピュータというデータ処理機の性能がアップした．お陰で多量データの処理解析も可能になった．このことは今の情報社会の人々の知るところである．

しかし，多量データの処理は理論的には可能になったとはいえ，そのための蓄積データの入力や整理・解析さらにその結果の表現技術（図グラフ表現）には，いまいちの工夫が望まれていた．つまり，量的な気候概念を一般社会人にも一目瞭然にわかってもらうための工夫が必要であった．この点に焦点をあて，気候解説手法に一段と飛躍をみせたことがこの書の特徴であろう．コンピュータ等の情報処理技術が進歩し，いろいろな分野で社会が整頓され，科学技術が進歩し，高度経済の恩恵を受けるようになって久しい．しかし，実はというと，気象台関係機関で蓄積された気象データが遠く過去にさかのぼって電算化されているのはごく一部についてであり，その高度な展開はこれからというものであろう．沖縄気象台若手職員はこのコンピュータ処理時代の到来を先取りし，一貫して，コンピュータ処理による数値・図グラフ入りの量的表現による気候解説を試みたといってよかろう．

本書は，何ごとにも数値概念をもとめるようになった現代の一般社会人，業界人，などすべての利用者が，沖縄の気候を理解する際に大いに役に立つものと思う．本書の内容には「沖縄の気候はどのように変化してきたか」，「世界の気候と比べて沖縄の気候はどんな特徴があるか」，「日本各地と比較した沖縄の気候特性」，「沖縄の気候の地域特性」，「災害をもたらす気象」，「気象と私たちの生活」，「資料集」等がある．

（琉球大学理学部　石島　英）

© 1998 日本気象学会